

令和7年12月19日（金） 高校集会（冬季休業前） あいさつ

令和7年があと10日ほどとなり、令和8年が間もなく始まろうとしています。今年も高志高校生の皆さんには学校内だけでなく学校外においても大いに活躍し、様々な場面で目にした私自身も大変嬉しく思いました。

本校の同窓会である「みどり葉」の関東支部の集まりでも、皆さんの活躍ぶりを紹介しました。すると多くの方々から「凄い！」、「高校生でそこまで出来るのか！」などの称賛の声や、「自分も何らかのかたちでお手伝いしたい」などの有難いお言葉をいただきました。まさに皆さんのが活躍が、本校を巣立った方々をも巻き込んだ大きなうねりを生み出しているのです。

さて、新しい年を迎えます。1年生、2年生の皆さんには1年を振り返り、新しいステージに向けて「新たな目標」を定めると思います。そして、3年生の皆さんにとっては、ついに、一人ひとりの持つ「夢」を実現させる次のステージである進路実現の時期です。高校の先生方、中学校の先生方も含めて教員全員が皆さんのために支援します。そして、2年生、1年生、中学生、後輩全員も皆さんを応援します。

3年生の皆さん、後輩たちの視線は皆さんの一挙手一投足に注がれています。

そこで、2つの言葉を紹介したいと思います。

數学者で作家でもある藤原正彦氏の言葉「これからが、これまでを決める」です。どのような意味合いだと思いますか。

普通は「これまでが、これからを決める」と考えがちです。つまり、皆さんに置き換えると「今までやってきたこと、努力してきたことが、皆さんの現状を創り出している。そして、将来にわたっても影響を及ぼす。」から、「現在を頑張らねばいけない。」という考え方です。つまり、「原因」があって「結果」がある。「因果関係」というもので、概して「欧米型の世界観」とも言われます。

その一方で、藤原さんの言葉は、これとは正反対の考え方です。「からの生き方次第で、これまでの人生の意味が変わってくる。」という意味です。東洋的な考え方と言えます。当然、皆さんは分かっていると思いますが、「これからいくらでも変えられることだからと楽観的に考える。」だけでは、何にも変わらず、意味を持ちません。「からの生き方」が「これまでの生き方」をプラスに変えるためには、変えるための、「強い意志」と必ず行動する「実行・実践」を伴うことが必要です。

そのために、もう一つの2つ目の言葉を紹介します。

それは、江崎グリコの創業者である江崎利一氏がよく使った言葉「不屈邁進」です。江崎グリコは皆さんもよく知っている総合食品メーカーです。しかし、私たちの生活に浸透するまで多くの困難や試行錯誤がありました。その度に、この「不屈邁進」を胸に決して挫けず、あきらめることなく、道を進み続けたと聞いています。

皆さんも、不安になる必要はありません。信念を持ってやるべきことをやり続ける。どんな時も希望を持って積極的に前に進む、進み続けることしかありません。強い信念のある人は「どう生きるか」を大切にします。ありたい自分の姿を実現するために前に進むのです。

生徒の皆さん。ともに励みましょう。自分も励みます。